10 風穴

長野山の峰に長野神社をまつる神域で、山そのものが信仰の対象となり一山に五つの神をまつり五社堂山ともいった。この北側に切り立った十丈余の岩があり、その絶壁に俗に風穴と呼んでいる岩室がある。ここは地名も風穴と呼んで人々のよく知っている穴でもある。

菅江真澄の「月の出羽路」にも「風穴とて岩楯の窟あり、蜀に風井ありて冬は風入り、夏は風出ると言えり」と記録にとどめている。

また伝説には数百年の昔、晴天にわかにかき曇り、雷声事おそろしく、至るところに落雷をみた。このとき激雷一火この風穴に入り、えんえんと燃え続けること七日七夜にわたり、夜間は長信田、豊岡からもよくみられたと伝えられている。これを見た村人たちは天火が立巌の妖怪を退治したと言い出し、その妖怪はこの山に往古から生息していた、大百足（むかで）であったと伝えてきている。